

笑う蛙 (2002)

メディア 映画

ジャンル コメディ ドラマ

製作国 日本

色彩 Color

時間 100分

初公開日 2002/07/06

公開情報 オフィス・シロウズ=メディアボックス

【キャッチコピー】

夫は妻を、永遠に抱きたいと思った。

妻は夫に、一度だけ抱かれたいと思った。

【解説】

直木賞作家、藤田宜永の長編小説『虜』を、「愛を乞うひと」「ターン」の平山秀幸監督が映画化したユーモラスなサスペンス・ドラマ。不倫の末に会社の金を使い込んで警察に追われる身となり、妻が一人で生活する家の納戸に1週間だけ匿ってもらうことになった夫が節穴から見たものは――。主演は長塚京三と大塚寧々。

かつてはエリート銀行マンだった倉沢逸平。妻・涼子との結婚生活に何か物足りなさを感じ、いつの間にかバーのママに入れあげていたかと思うと、あとは坂を転げ落ちるように不運が重なっていく。気がついたときには会社の金を横領、全国に指名手配される身となり逃亡生活を余儀なくされていた。残された妻・涼子は家売り払い、実家の別荘でひっそりと暮らしている。そんなある日、涼子が住んでいるとも知らずこの別荘にやって来る逸平。図らずも再会する二人。涼子は自首を勧めるが、懇願する逸平に負け、離婚届に判を押すことを条件に1週間だけ納戸に匿うことを承知するのだった……。

とにかく出てくる俳優陣、女優陣のおトボケ演技合戦が最大の見もの。ベテラン、雪村いづみとミッキー・カーチスは言うに及ばず、おトボケ演技をやらせたら右に出る者のいないきたろうは当然として、あまり演技は器用とは言えない大塚寧々（ルーズな着こなしがなんとも色っぽい）にとってもこの演技は得意分野。そして万能役者の長塚京三に國村隼。皆がみな、なんとも心の籠もらない演技を披露して笑わせてくれる。ただ一人、まじめに演技していた(?)南果歩が思いっきり浮いていたというのもなんともおかしい。ラストも爽快。

【クレジット】

監督 平山秀幸

製作 岡本東郎

石川富康

升水惟雄

飯田隆

鎌谷照夫

多井久晃

企画 佐々木史朗

渡辺敦

プロデューサー 福島聡司

久保田傑

原作 藤田宜永

新潮社刊『虜』

脚本 成島出

撮影 柴崎幸三

照明

上田なりゆき

出演

長塚京三

倉沢逸平

大塚寧々

倉沢涼子

ミッキー・カーチス Mickey Curtis

相沢紀一郎

國村隼

吉住暁男

きたろう

稲松健太郎

三田村周三

宇崎刑事

金久美子

稲松咲子

南果歩

本吉貴子

雪村いづみ

稲松早苗